

〔曲名〕 La Bella Italia

麗しきイタリア

〔曲種〕 Sinfonia

序曲

〔作曲者〕 Francesco Gemme

フランチェスコ ジェムメ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

イタリアには古くからの言葉に「ナポリ見てから死ね」というのがある。

それほどナポリは美しいということなのであろうが何もナポリに限らず風景で美しい所は無数にある。

古来幾多の詩人、画家、音楽家がイタリアに旅しての感激の所産は数え切れないが、

それにもましてイタリア自身が芸術の凡ゆる面に大家を輩出しているのは美しい環境にある何よりの証拠と云えよう。

最近では御他分に洩れず観光地化してかの音に名高いヴェニスや海等も工場のヘドロに汚されて掃海艇が右往左往する有様と伝えられるが、

中世以来の壮麗な建造物、美しい彫刻は至る所にあり絢爛たる歴史を我々に語りかける。

本曲の作者フランチェスコ・ジェムメは十九世紀末のイタリアの軍楽隊楽長でソルモーナの長官アントニオ・ドット・デ・ダウリ氏に恭しく献げられている。

1896年の出版で表紙にはローマのサンピエトロ、フィレンツェのヴェッキオ宮、ミラノ大寺ヴェスヴィオを望むナポリが描かれてある。

同じ題名でベルレングもワルツのマンダリン合奏曲を書いているが、本曲の方が遥かに面白く力作である。Tamburoは小太鼓である。

少くとも数十名以上の大合奏にしたい。

1971年2月7日発行

イタリアマンドリン百曲選第10集より